　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2019.07.23（火）

**川崎支部便り（定期便）（2019年8月　第18号）**

**（オープンで各自が主役：川崎支部）**川崎支部支部長　山岸　一雄

（執筆者　河合・山岸）

　川崎支部の皆さん、お元気でしょうか。

　先月の川崎支部便りはお楽しみ頂けたでしょうか。周りを見渡して感じることは・・・。

作家の山本一力氏の講演を聞くと、あのバリトンの様な低く通る声で、旅行会社にいる時に体得した知恵が耳に残ります。

それは、①「怖いものは食え。逃げれば追ってくる」知恵を使い、怖いものと向き合えば相手の方が尻尾を巻いて逃げる。　②「丸い時刻を使うな」「会議の10時30分を10時27分、宴会の18時は17時57分･･･こんなふうにギザギザに尖った時刻で集合をかけろ」　8時、9時30分等の割り切れる丸い時刻だと、2、3分なら遅れても大丈夫と、勝手な判断をする者がいる。しかし、8分や52分等の割り切れない尖った時刻を言われたら、それに遅れると置き去りにされると不安に思うらしい。　③「靴磨きを怠るな」ポイントは2つ。一つは何事も最後まで手を抜かないで、仕上げを怠るな。「頭髪のセットや服には大変気を遣うが、靴は汚れていても気にしないものが多い」優秀なホテルマンは、最初にお客様の靴を見る。二つ目は素人とプロの技の違い。「プロに払うカネを惜しむな。本物のプロは、受け取るカネに見合う技を見せてくれる。早く、カネの取れるプロになれ」過ぎたる倹約は、もはや美徳ではない。 ④○○をしてはいけないという表現は、口にしたその瞬間からすでに負けている。○○してはいけないという表現を聞くと、意識はそれに絡めとられている。　　⑤○○したいと思いますという限り、実現は難しい。します、と言い切れ。「思います」の表現は、責任を取ることから巧みに隔たりを保っている。　　⑥どこまでを自己責任の範囲とするか。その範囲の大きさで、人の器量は決まる。事故責任の範囲は、無限大にも最小限にも拡大・縮小が自在だ。当人はうまく言い逃れて責任回避をした気でいても、範囲の狭さは丸見えである。

**川　崎　点　描　（八景いろいろ－近江八景・琉球八景）②**

江戸後期の歌人・文筆家伴蒿蹊（ばん こうけい、享保18年10月1日（1733年11月7日） - 文化3年7月25日（ 1806年9月7日））は、名を資芳（すけよし）と称し、別号を閑田子（かんでんし）と号す）は慶長期（1596年～1615年）の関白近衛信尹(このえ のぶただ）自筆の近江八景和歌巻子を知人のもとで観覧し、その奥書に現行の近江八景と同様の名所と情景の取り合わせに至る八景成立の経緯が紹介されています。現在は、現行の近江八景の成立は近衛信尹によるものとする見方が有力となっています。一説には、室町時代後期に近江国に滞在した、時の関白近衛政家が当地で和歌八首を詠んだとの説も有ります。しかし、近江八景の絵画作品の登場が17世紀（1601年～1700年）後期以降なので、先行する和歌の成立が17世紀初頭なのは自然の様です。

　　　近江八景　　　　　　　－　　　　　　　　　　　　瀟湘八景

1. 粟津晴嵐（あわつせいらん）（あわつはら　大津市）－　山市晴嵐
2. 矢橋帰帆（やばせのきはん）（矢橋　草津市）－　遠浦帰帆
3. 勢多（瀬田）夕照（せたのせきしょう）（瀬田の唐橋　大津市）－　漁村夕照
4. 三井晩鐘（みいのばんしょう）（三井寺・園城寺　大津市）－　煙寺晩鐘
5. 唐崎夜雨（からさきのやう）（唐崎神社　大津市）－　瀟湘夜雨
6. 石山秋月（いしやまのしゅうげつ）（石山寺　大津市）－　洞庭秋月
7. 堅田落雁（かたたのらくがん）（浮御堂　大津市）－　平沙落雁
8. 比良暮雪（ひらのぼせつ）（比良山系）－　江天暮雪

となります。

次は、葛飾北斎も描いた「琉球八景」に移りましょう。

15世紀初めに誕生した琉球王国は、中国との冊封（さくほう）（註1）関係の中で独自の文化を育んできたが、1609（慶長１４）年にあった薩摩藩の琉球侵攻により幕藩体制に組み込まれることとなり、徳川将軍や琉球国王の代替わりのたびに、琉球の使者が薩摩藩に伴われて江戸へ挨拶に行く「江戸上り」が義務づけられました。その回数は1634年から1850年迄に18回を数えました。江戸上りの際には、約1,000人の教養人で構成された琉球使節団が、1,000人を超える薩摩藩の役人や護衛に伴われ、瀬戸内海、美濃路、東海道を行き、江戸城へ向かいました。（一説によると、琉球使節団８０人～２００人、薩摩藩役人800人～950人の資料が有り、合計1,000人以上で、江戸に向かった様です。）中国風の衣装を身にまとい、路地楽を演奏しながら進むその異国情緒あふれる行列は、大変な評判となり、ひと目見ようとする人々で大騒ぎになり、特に、きらびやかな衣装を身に着けた「楽童子」は注目の的だったそうです。

江戸上りのたびにガイドブックの様な冊子が出版され、行列の様子を描いた図や浮世絵も制作される等、江戸城下は異国趣味の「琉球ブーム」で盛り上がりました。そのブームの中で制作されたのが、葛飾北斎（宝暦10年9月23日〈1760年10月31日〉? - 嘉永2年4月18日〈1849年5月10日〉）の『琉球八景』で、制作されたのは天保3年・1832年頃（天保3年は、今から187年前）とされます。

「琉球八景」は琉球の景勝地を描いた錦絵（多色摺りの木版画）全8枚で構成されており、1823年の江戸上りにあわせて制作されたと思われます。ただ、北斎は異国である琉球を訪れてはいないので、1756年に来琉した冊封使・周煌が書いた琉球の見聞録『琉球国志略』に収録された絵図（「中山八景」）を元に描き、想像で着色したものとされています。そのため、描かれているのは実在した場所ですが、幻想的な雰囲気の作品になっています。北斎の想像力で元絵にはない舟や人物も描き加えられ、中には琉球には無い雪や富士山が描かれたものまであります。尚、北斎は琉球を舞台にした滝沢馬琴の伝記物語『椿説弓張月』の挿絵も描いています。

「琉球八景」は①泉崎夜月（いずみざきやげつ）、②臨海湖声（りんかいこせい）、③粂村竹籬（くめむらちくり）（ちくりとは垣根のこと）、④龍洞松濤（りゅうどうしょうとう）、⑤筍崖夕照（じゅんがいせきしょう）、⑥長虹秋霽（ちょうこうしゅうせい）、⑦城嶽霊泉（じょうがくれいせん）、⑧中島蕉園（なかしましょうえん）

（註1）柵封：冊封の原義は「冊（文書）を授けて封建する」と言う意味であり、[封建](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%81%E5%BB%BA)とほぼ同義である。冊封を受けた国の君主は、王や侯といった中国の[爵号](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%88%B5%E5%8F%B7)（爵の称号）を授かり、中国皇帝と君臣関係を結ぶ。この冊封によって中国皇帝の（形式的ではあるが）臣下となった君主の国のことを[冊封国](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%8A%E5%B0%81%E5%9B%BD)という。このようにして成立した冊封関係では、一般に冊封国の君主号は一定の土地あるいは民族概念と結びついた「地域名（あるいは民族名）＋爵号」という形式をとっており、このことは冊封が封建概念に基づいていることを示しているとともに、これらの君主は冊封された領域内で基本的に自治あるいは自立を認められていたことを示している。 したがって、冊封関係を結んだからといって、それがそのまま中国の領土となったという意味ではない。 冊封国の君主の臣下たちは、あくまで君主の臣下であって、中国皇帝とは関係を持たない。



　　　　　　　泉崎夜月　　　　　　　　　　　　　　　臨海湖声



　　　　　　　粂村竹籬　　　　　　　　　　　　　　　龍洞松濤



　　　　　　　筍崖夕照　　　　　　　　　　　　　　　長虹秋霽



　　　　　　　　城嶽霊泉　　　　　　　　　　　　　　　中島蕉園

**川崎支部の活動**

川崎支部の秋季～冬季にかけての行事予定は下記となりますので、是非参加願います。

・2019.07.28（土）　第2回定期講演会（詐欺被害の実例）（夢キャンパスで14時から）

・2019.09.28（土）　ミステリーツアー

・2019.10.05（土）　関東甲信越地区支部総会（ｉｎ　新潟）

・2019.10.19（土）　創立90周年記念行事（全体行事）

・2019.10.26（土）　神奈川三支部総会・合同懇親会（横浜キャンパス）

・2019.11.23（土）　第3回定期講演会（都市工学　長岡裕教授）（夢キャンパスで14時

　　　　から）

・2019.12.21（土）　第4回定期講演会（医用工学科　和多田雅哉教授）（夢キャンパスで14時から）

・2020.02.08（土）　第5回定期講演会（アップコン　松藤展和社長）（働き方改革で

数々の賞を受賞－高津区の誇り）（夢キャンパスで14時から）

**耳寄り情報**

A．「入舞」（いりまい）という美しい言葉が有ります。世阿弥（1363年？～1443年）が62歳の時に著した「華鏡（かきょう）」に出てきます。「入舞」は舞楽などでいったん舞が終わって舞い手が退場する前に、もう一度舞台に戻って、名残りを惜しむかの様にひと舞い舞って舞い収めることを言うのだそうです。世阿弥のいう「入舞」は、老境に入った能の名手が、もう人生の最後というところ、壮年の役者には及びもつかない芸境の能を演じて観衆を感動させるようなこと指しています。

世阿弥は「花鏡」の「劫之入用心之事（こうのいるようじんのこと）」の章で、「劫（こう－年功のこと）」が大切だが、「劫」に安住して、老後の発展が停滞しない様に戒めています。ならば、「住劫（じゅうこう）」という過去の栄光にしがみついて何の発見がなければ進歩もないことを嫌っています。どうすれば「住劫」を避けられるでしょうか。「花鏡」の最後の章「奥段（おくのだん）」で優れたアドバイスをしています。有名な「初心忘するべからず」の項です。三つの初心、「是非の初心」「時々の初心」そして「老後の初心」について説いています。「老いの入舞」を可能にする「老後の初心」とは一体何でしょうか。

寿命には限りがあるが芸能には果てが有りません。もう体もきかず、やらない方がましということもあります。しかし、そうなってからこそできる重大なこともあります。それを発見することです。現在や将来の問題を見据えて、理解を深めていくことによって、この時期でなくては出来ない発見に参加することが可能になるかどうかです。600年以上前の気迫ある言葉を耳元でささやいています。

B．「成田国際空港開港40年（2018年）」

・1962年（昭和37年）から新たな東京国際空港の候補地の調査が開始されました。1965年（昭和40年）6月1日に成立した「新東京国際空港公団法」の検討に着手し、千葉県浦安市沖の埋立地、千葉県富里市・八街市、茨城県浦安沖、神奈川県金沢八景沖の埋立地等が候補地でした。

　　結果は当時の佐藤栄作内閣時代の1966年7月4日（昭和41年）に閣議決定をしました。その理由は、国有地（宮内庁の御料牧場や県有林、そして周辺の土地は戦後開拓農民の所有で、用地買収が容易と考えたそうです。

　　しかし、事前説明がないままに地元農民の一部が買収に伴う移転や騒音問題から空港建設に大反対をし、「三里塚芝山連合空港反対同盟」に日本の新左翼が支援をし、ゲリラ闘争（三里塚闘争）が行われ、機動隊の投入となりました。犠牲者の発生や空港への列車の放火等が重なり、開港にこぎつけた4日前の1978年3月26日（昭和53年）に管制塔にゲリラが乱入し、開口は約2月延長の5月20日になりました。

　・2018年の航空機発着回数は、国際線を中心に年間を通じて新規就航、増便が相次いだことから、前年比1％増の255,003回と、7年連続で開港以来の最高値を更新しました。

・国際線発着回数においては、ノックスクートやマンダリン航空、フィジー・エアウェイズ等の新規乗り入れに加え、アジア線を中心に増便が相次いだことから、前年比3％増の202,953回と、4年連続で開港以来の最高値を更新すると共に、初めて20万回を突破しました。

・国際線外国人旅客数が好調により、前年比5％増の42,601,130人と、5年連続で開港以来の最高値を更新しました。

・国際線の好調さは持続されていますが、国内線の利用者数は前年比4％減、発着回数も前年比4％減となっており、主に第3ターミナルを主体とするLCCが新路線を開設する一方、伸び悩んでいる様子が垣間見えます。

皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。（連絡先：[k\_yamagishi@6kou.co.jp](mailto:k_yamagishi@6kou.co.jp) 山岸宛（窓口））